



「副専攻(実践ビジネス英語)プログラム」がスタート

I 集中講義やWEB学習も取り入れる

大学では、2017年度入学生より「副専攻(実践ビジネス英語)プログラム」を導入、開始しました。「このプログラムは、学生が自分の在籍する学科やコースの専門技能に加えて、グローバル社会で対応できる英語力を身につけることを目的としています」と、言語センター長の水野真木子先生は話します。

プログラムを受講できるのは、英語や外国語を専門分野としない11学科から選抜された各学年の30人です。プログラムは、一般英語科目に加え、「TOEIC L&Rテスト」のスコア向上に特化した科目、海外でのビジネス英語

研修、英語レポート作成で構成され、これらすべての単位の取得とTOEIC L&Rテストのスコア730点以上を目指します。このプログラムの費用は大学の全額負担となります。

具体的に、1・2年次の「英語コミュニケーションA～D」では通常の英語学習を実施。1～3年次まで春休みや夏休みの期間中に「実践ビジネス英語」として3日間の集中講義とウェブ学習を行い、4年次はプログラムの総まとめとして英語レポート作成を行います。水野先生は「特にウェブ学習は1日25分間、最低25日受講しなくてはならず、学生のやる



文学部 英語英米文化学科
言語センター長
水野 真木子教授

法と言語学会副会長。日本通訳翻訳学会、日本コミュニケーション学会、日本国際文化学会に所属。専門分野は通訳翻訳学、法言語学。

気と持続力が重要になってきます」といいます。またTOEICのスコアアップをめざした自習用のソフトウェア教材も自由に使うことができ、学生は授業とは別に自習をしっかりと行うことで、かなりの英語力を身につけることができます。

I 海外ビジネス研修で力を磨く

2年次の春期には「海外ビジネス研修」としてカナダ南西部ブリティッシュ・コロンビア州にあるロイヤル・ローズ大学で7日間の研修があります。これに先立ち、トライアル研修として昨年と今年の2月に対象学部から選抜された5人の学生が海外ビジネス研修を受講しました。

研修ではビジネス英語マナー研修をはじめ、インターナショナルホテル



研修やツーリズム研修が行われました。またビクトリアボランティア協会を訪問して、現地のボランティアのシステムについて学ぶことができ、学生は、充実した海外研修を終えることができました。「ロイヤル・ローズ大学は自然に囲まれたすばらしい学習環境に恵まれています。ホームステイも体験できて、学生はみな楽しく研修ができたようです」と水野先生は話します。「トライアル研修の反省点もいくつか踏まえた上で、今年は女性のリーダーシップについての研修など、金城学院大学らしいプログラムも取り入れていただくように提案しています」。

この副専攻プログラムを通して、水野先生は「今の社会はどの分野に



においても英語ができる人材を必要としています。専門的な知識を持ち、なおかつ英語に強い人材として、社会の即戦力となって活躍できる女性になってほしい」といいます。またプログラムはコツコツと真面目に頑張ることができる学生に受講してもらいたいとも話します。「自分の付加価値をつけるためにあきらめず努力できる人や、国際的な感性を持った学生に頑張ってもらっています」。このプログラムを通して、グローバル社会でおおいに活躍できる人材が育成されることを期待します。

縦割り保育の拡充を願い、満3歳児保育スタート

I 年少児よりさらに丁寧な関わりで保育

幼稚園では金城学院の長期計画の実現と、3・4・5歳児の縦割り保育の拡充を考えて、今年度より満3歳児保育を開始いたしました。満3歳児保育は3歳の誕生日を迎えた日より入園することができます。年少児より一学年小さい子どもたちのクラスです。この時期は成長発達の差が著しく、生活の自立に大切な時期でもあるため、年少児よりもさらに丁寧な関わりが必要です。



そのため、定員12名の少人数クラス編成となっています。満3歳の日から入園できるため、誰もが無理なくゆっくりと社会生活に慣れていくことができるところが特徴でもあります。

クラス名は「にじ組」です。その由来は、創世記6章～に記されています。神さまの御前にノアと家族、動物たちを箱舟に乗せ、洪水から救われたあと、神さまは「二度と洪水によって肉なるものがことごとく滅ぼされることはなく、洪水が起こって地を滅ぼすことも決してない。すなわち、わたしは雲の中にわたしの虹を置く。これはわたしと大地の間に立てた契約のしるしとなる。」とノアと息子たちに約束されました。また虹の

輝きの美しさは、天における神の栄光の象徴とされています。子どもたちが常に神さまに守られその栄光に照らされることを願い、にじ組と名付けました。

9月に入り、にじ組12名全員がそろいました。以前絵本の部屋として使用していた保育室を改装し、満3歳児の子どもたちにぴったりの可愛い部屋に生まれ変わりました。机も椅子もミニサイズです。自由な遊びの時間には、3・4・5歳児や担任と一緒に遊び、クラスのあつまりでは手遊びや絵本、体操とさまざまなことを楽しんでいます。毎日かわいい姿を見せてっていますが、その中のほんの一部をご紹介します。いただきます。

I 心を和ませてくれる愛らしいエピソードの数々

“おおかみさん今何時?”という鬼ごっこ遊びをしていたとき、「おおかみさん」と聞いて怖くなって「やりたくない」と言ったAちゃん。しばらくしてから気持ちが変わり、おおかみ役になりました。「おおかみさんいまなんじ?」「よなかの10じ!」「あーよかった」とこの繰り返しが続きました。本来は「夜中の12時」とおおかみ役が言うと、みんながおおかみに捕まらないように逃げるという遊びですが、ずっと捕まらないというオリジナルの遊びになりました。

また年上児がバザーでお店屋さんをするための物を作っていた様子を見て、にじ組の子どもたちも挑戦。きれ

いな模様の紙をのりで上手にはがきに貼ることができました。「これはバザーでお店屋さんや並べて売らなよ」と説明をすると、「バザーってなに?」「売らな?」「買らな?」と子どもたちから質問の嵐。「バザー」という言葉を何回も聞いたからか、作ったのはがきを「バザー」という名前だと思い、「ぜったいバザー買ら!」と可愛い言葉も聞かれま



した。

このようににじ組の子どもたちはみんなの気持ちを和ませてくれます。また戸外でも室内でも年上児が遊んでいる姿を見て、楽しそうだなと思ったら真似をし、年上児からもたくさん愛情と刺激を受けて過ごしています。今後にもにじ組の子どもたち一人ひとりが、同年齢・異年齢児との関わりの中でたくさんを経験し、心身ともに成長していくことを願っています。

英語での発信力高め、グローバルな視点を養う グローバル・ディスカッションに5人が参加

Ⅰ 他校の生徒とグループを組み、討論の結果をプレゼンテーション

8月21、22日に名古屋大学教育学部附属中・高等学校で行われた「グローバル・ディスカッション」に高校の黒部麻由子さん(3年)、大宮璃子さん(2年)、山崎みのりさん(2年)、大野千夏さん(2年)、赤根実侑さん(2年)が参加し、「スーパーグローバルハイスクール」指定校の生徒たちとの英語討論を行いました。

参加者は希望者から選抜で決定。柳瀬公代先生とロレンス・ブレイブ先生による事前学習を経て当日に臨みました。



討論会では学校が異なる5人でグループを構成。「自由主義経済と保護主義経済の衝突、日本はどうあるべきか」をテーマに話し合い、最終日に発表が行われました。

黒部さんは「テーマが難しく最初は迷ったのですが、大学生になる前にもっと学びたいという思いがありました」と参加し、充実した2日間を過ごしたといいます。また大宮さんは「みんなが自分の意見をしっかりと発信できていて、刺激を受けました」と話します。山崎さんは「反論や質問が返ってきたとき、すぐに答えられなかったことがあり反省しました。」と自身の課題を見つけたようです。



大野さんは「世の中にはいろいろな視点があるのだということを感じると同時に経済の面白さにも気づきました」と振り返ります。赤根さんも「リーダーや書記など役割を決めて話し合いました。この方法をDignity(総合的な学習の時間)でも応用したいと思います」と成果を得ました。この経験を今後の授業で活かしていきます。

高校グリークラブが 全国大会に出場

Ⅰ 33年ぶりに中部合唱コンクールで金賞受賞。全国大会へ

高校グリークラブが9月23日に金沢歌劇座で行われた「第70回中部合唱コンクール」に高校A部門で出場し、見事金賞を受賞しました。夏休み返上で練習をしてきた生徒たちは当日すばらしい演奏を披露。「みんな驚き、大喜びでした」と顧問の宮木令子先生は話します。

10月28日に大阪フェスティバルホールで行われた全国大会でも日頃の成果を発揮。「演奏できて嬉しかった」「最高の演奏ができました」と部長の柴山美帆さん、副部長の酒向綾音さんも笑顔。グリークラブはメサイアやクリスマスの演奏に向けて今後も頑張っていきます。





名大MIRAI GSCで高校2年の鈴木暖生さんが最終ステージに選出

Ⅰ 来年3月のドイツ研修へ参加、英語での研究発表へ

科学の世界を牽引する人材を養成するため名古屋大学が行う「名大MIRAI GSC(グローバルサイエンスキャンパス)」の最終ステージに高校2年の鈴木暖生さんが選ばれました。

今回の選考では、高校生260人の応募の中から書類選考を通過した180人が名古屋大学で講義を受ける第1

ステージに参加。ここで選ばれた50人が実験や実習の研修を行う第2ステージにすすみ、海外研修を行う第3ステージには鈴木さんを含む26人が選抜されました。

「研究室では肺がんの分子標的薬について研究しました。高度な実験を行い大変でしたが、いろいろな人



たちとの交流を通し視野が広がりました」と鈴木さん。現在は12月の岡崎市での研究発表「科学三昧inあいち」、3月のドイツの大学での発表に向け準備をすすめています。



NIE全国大会で高校の生徒たちが活躍

Ⅰ 武岡先生の実践発表で授業再現、放送部員が大会全体の司会を担当

8月3日、4日、名古屋国際会議場で行われたNIE(Newspaper in Education)全国大会に金城学院高校の生徒が参加。大勢の学校関係者や新聞関係者が見守る中、司会と実践発表の授業で活躍しました。

2日間にわたって司会を務めたのは放送部の2年生、磯谷みずほさん、吉田彩夏さん、西山みづきさん。磯谷さんは「開会式で何度も名前を紹介するところがあり、間違えないよう気をつけました」と振り返ります。吉田さんは「棒読みにならないよう心掛けました」

と話し、西山さんは「2000人以上の方々が注目して聞いてくださって嬉しかったです」と感想をのべました。

3年生の林珠衣奈さん、早瀬綾乃さんら12人の生徒たちは2日目に行われた武岡基先生の授業の再現をする実践発表を行いました。

武岡先生は社会科の選択科目「社会問題」で生徒が作った新聞切り抜き作品をもとにプレゼンテーションと質疑応答をする形式の「POSTER-Q」という授業を行っています。今大会では林さんと早瀬さんが発表者を務め、



ほかの生徒が質問をする役割を行いました。

林さんは「事前にお聞きしていたよりも会場には多くの方がいらっやっやいて、とても緊張しました」と全国から来ている学校関係者の多さに圧倒された様子。新聞を使った授業について早瀬さんは「深くものごとを考えられますし、意見を交換する機会がある点が楽しいです」と話します。

武岡先生は「準備の時間が少なかつたにも関わらず頑張ってくれました」と生徒たちの活躍をほめていらっやいました。

